

平成 28 年度
石西礁湖自然再生事業評価手法検討等業務 第 1 回勉強会
議事概要

時間：平成 28 年 12 月 17 日（月）9:00～16:00

場所：国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター

【出席者（敬称略）】

有識者	土屋 誠	国立大学法人琉球大学 名誉教授
	野島 哲	元 国立大学法人九州大学 理学部付属天草臨海実験所 准教授
	藤原 秀一	いであ株式会社特任理事主席研究員
環境省	中野 圭一	環境省那覇自然環境事務所 次長
	伊藤 珠実	環境省那覇自然環境事務所石垣自然保護官事務所 係員
	神保 彩葉	環境省那覇自然環境事務所石垣自然保護官事務所 自然保護官補佐
受託者	石森 博雄	いであ株式会社 研究員

1. 開会

2. 本業務の流れについて

3. 資料説明

モニタリングサイト 1000 データの解析について

土屋：サンゴ群集の変遷がわかりやすくてよい。

サンゴ群集モニタリング調査データの解析について

野島：積算優先度については、まず被度と頻度の両方のデータを示した方がわかりやすい。

土屋：高被度群集と低被度群集については、もう少し詳細なデータが欲しい。

野島：過去に佐藤自然保護官補佐らが、天草臨海実習所で野島の指導の下で、サンゴ被度、透視度等、当時のデータを整理したことがあるので、参考になると思われる。

野島： 個体群動態についても、下記の点について、解析を進めてほしい。

- 一定着板への加入と自然加入とは同一か。
- 一定着板加入と一年生サンゴ、被度変遷の関係は。
- 一定着が多いが、一年生サンゴの生残が少ない場所等、地点の類型化。
- クシハマミドリイシ長径の成長曲線から被度の成長予測をする。
- ーまた、白化の前後で被度の変化はどうか。

ー北礁の1998年白化以降の被度変遷はどうか。

攪乱要因調査データの解析について

中野：水質調査について、経年変化を示してほしい。

藤原：オニヒトデ駆除については、地点をエリアにまとめてデータ処理しているため、効果が見えてこないと思われる。また、小型個体を取り切れていないことも原因と考えられる。今後さらにデータを集めたい。

その他のデータの解析について

・漁業データの解析について、

土屋：ー漁獲努力量と漁獲量の変化はなぜ一致しないのか。

土屋：モニ1000 データ魚類の個体数とサンゴ被度の関係は検討できるか。

野島：おおまかな魚類の把握なので難しいと思われる。サンゴ群集モニタリングでは魚種調査しているので、サンゴ被度との関係を検討できるだろう。

土屋：ー東大水産学科の佐野准教授が魚類とサンゴの関係を研究しているので、参照したらよい。

野島：ー1998年白化の瀬底でのテングカワハギとサンゴの関係の報告があるので、参照したらよい。